

# 2024年3月期 第2四半期 決算概要

2023年11月14日

テルモ株式会社  
Chief Accounting and Financial Officer  
武藤 直樹



CAFOの武藤でございます。2024年3月期 上期の決算概要を説明いたします。

## おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況等があります。また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

## ■ ハイライト

### ■ 売上収益

- | 半期として過去最高
- | 心臓血管と血液・細胞テクノロジーが二桁伸長して牽引

### ■ 営業利益

- | 半期として過去最高。為替影響を除いて15%増益
- | 収益改善策（価格政策・原価低減）が計画通り進捗

### ■ 株主還元

- | 今年度中に200億円の自社株取得予定

本決算のハイライトです。

上期は売上収益、営業利益ともに半期として過去最高となりました。グローバルで継続して引き合いが強く、売上収益は為替を除いて+6%の伸長となりました。

営業利益は為替を除いて+15%の増益となりました。インフレ影響を収益改善策のプラス効果が継続して上回っており、通期の業績予想に対しても順調な進捗となりました。

また、すでに発表した自社株取得については、年度内に上限200億円の自社株取得を予定します。

次のスライドをお願いします。

## P&L実績

- 売上収益：グローバルで強い需要が継続し、TIS、血液センター向けビジネス、血管が二桁伸長して牽引
- 営業利益：想定通りの調整後営業利益の進捗に加え、一時的な収益による二桁増益

金額 (億円)	FY22 Q2累計	FY23 Q2累計	増減率	為替除く増減率	FY22 Q2	FY23 Q2	増減率
売上収益	4,033	4,439	10%	6%	2,060	2,286	11%
売上総利益 (%)	2,070 (51.3%)	2,283 (51.4%)	10%	6%	1,054 (51.1%)	1,185 (51.8%)	12%
一般管理費 (%)	1,171 (29.0%)	1,315 (29.6%)	12%	8%	605 (29.4%)	664 (29.0%)	10%
研究開発費 (%)	297 (7.4%)	318 (7.2%)	7%	3%	157 (7.6%)	164 (7.2%)	5%
その他収益費用	-42	15	-	-	-37	12	-
営業利益 (%)	560 (13.9%)	665 (15.0%)	19%	15%	255 (12.4%)	368 (16.1%)	44%
調整後営業利益 (%)	704 (17.5%)	756 (17.0%)	7%	4%	345 (16.8%)	411 (18.0%)	19%
税引前利益 (%)	546 (13.5%)	664 (15.0%)	22%		250 (12.1%)	366 (16.0%)	47%
当期利益 (%)	403 (10.0%)	501 (11.3%)	24%		179 (8.7%)	275 (12.0%)	54%

期中平均レート(USD/EUR)

134円/139円

141円/153円

138円/139円

145円/157円

©TERUMO CORPORATION

4 / 11



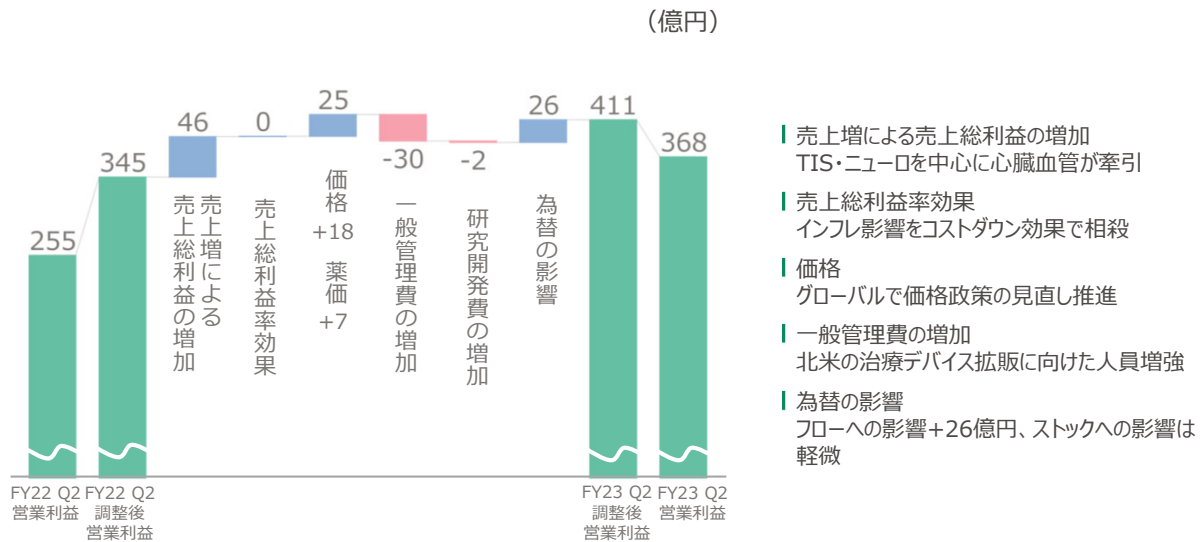
PL実績です。

売上収益は、心臓血管のTISと血管と、血液・細胞テクノロジーの血液センター向けビジネスが二桁伸長して牽引しました。

営業利益は、海外での価格政策見直しと全社コストダウンの効果が想定通りに出てきているほか、事業ポートフォリオ最適化に伴う一時的な収益の計上もあり、大きく伸長しています。

Q2三か月の前年対比では、粗利率と調整後営業利益率が、ともに改善しています。次のスライドで詳細をご説明します。

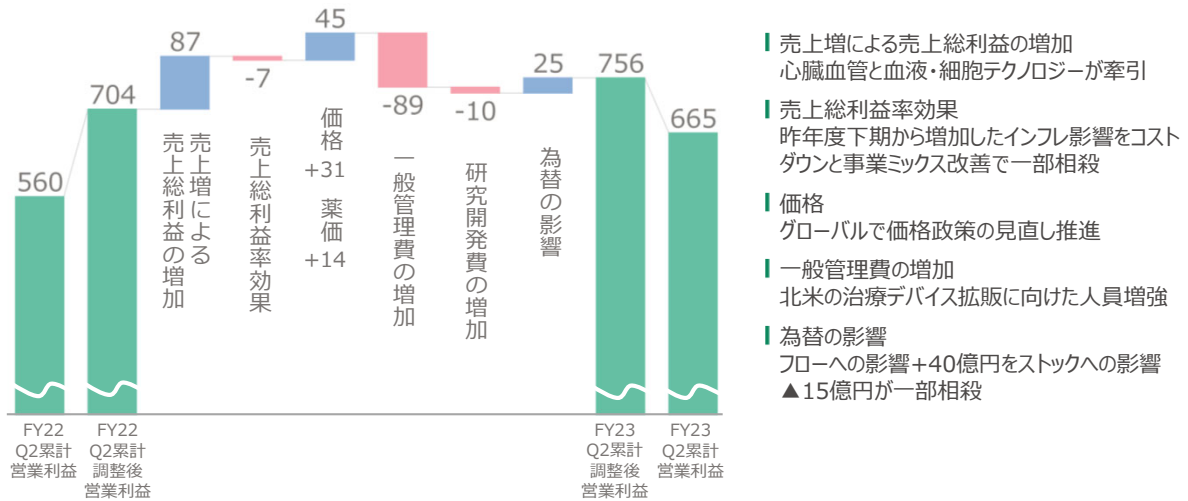
## 営業利益増減分析（Q2）：インフレ影響の緩和と収益改善施策の進展



Q2三か月の前年同期比による、利益増減の分析です。  
 まず「売上総利益率効果」は、昨年度下期に悪化したインフレ影響を、コストダウンと事業ミックスの改善によるプラス効果で相殺しました。前年同期比では、Q1時点では▲7億円でしたが、Q2は改善してプラスマイナスゼロとなりました。  
 「価格」では、日本での薬価改定によるプラス影響に加え、昨年度からグローバルで見直してきた価格政策の成果が拡大しています。  
 「一般管理費の増加」は、Q1に引き続き、北米の治療デバイス拡販に向けた投資を継続しました。  
 「為替の影響」は、ストックへの影響が軽微であったため、フローへのプラス影響のみとなりました。  
 こうしたQ2の結果を踏まえ、Q2累計での利益増減も、各項目で順調に進捗しています。  
 次のスライドでポイントをご説明します。

## 営業利益増減分析（Q2累計）：各項目で順調な進捗

(億円)



©TERUMO CORPORATION

6 / 11

TERUMO

Q2累計での利益増減です。

「売上増による売上総利益の増加」は、通期170億の予想に対して順調に進捗。

「売上総利益率効果」は、Q1時点と同額のマイナス幅にとどまっています。

この「売上総利益率効果」については、後ほど四半期ごとの進捗と見通しを、詳細にご説明します。

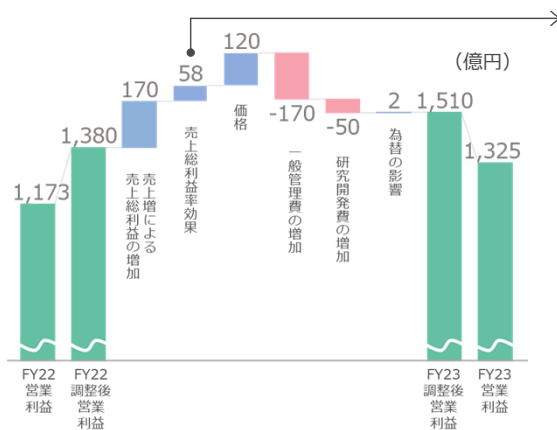
「一般管理費の増加」も、通期予想に対して、順調な進捗となりました。

「為替の影響」は、フローへのプラス影響がストックへのマイナス影響を上回りました。内訳は、フローに+40億円、ストックに▲15億円の影響でした。

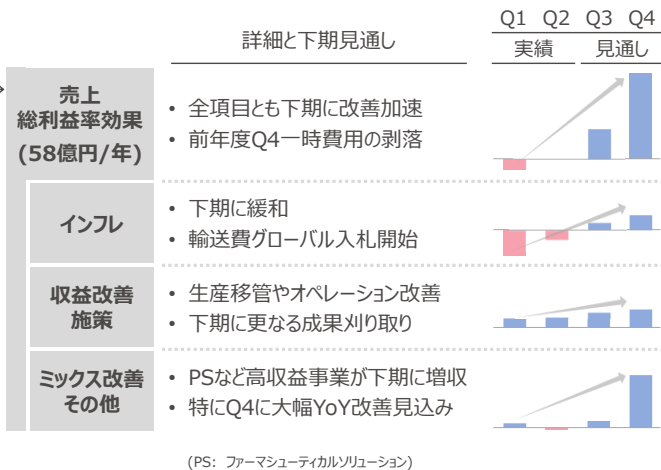
次のスライドをお願いします。

## 売上総利益率効果：下期に大きく改善の見通し

### FY23 業績予想 利益増減要因



### 項目別・四半期ごとの内訳



スライド左側のウォーターフォールチャートは、5月に発表している、通期の業績予想の利益増減です。

この中の「売上総利益率効果」について、Q1・Q2の実績と、Q3・Q4の見通しの金額を、スライド右側の上段に棒グラフで示しています。

四半期ごとに右肩上がりの改善となっており、特にQ4は前年度の一時費用が剥落することで、大きくプラスとなっています。

下段には、項目別の内訳を示しています。

インフレ、収益改善施策、ミックス改善・その他 の3項目です。

インフレ影響は、昨年度の下期に、国内の電気代が大きく悪化しましたが、それ以降はフラットに推移しており、今後は緩和していく見通しです。

そして輸送費については、上期より費用削減の取り組みを始めました。輸送に関する契約は、以前は各地域で個別に締結していましたが、これらを集約し、グローバルでの入札を実施。下期には、そのプラス効果も期待できます。

収益改善施策は、既にコスタリカ生産移管の効果が発現していること

に加え、下期には国内工場のオペレーション改善効果も上乗せされることで、更なる刈り取りを見込んでいます。

ミックス改善・その他については、ファーマシューティカルソリューションなど、利益率の高い事業が下期に増収することに加え、昨年度のQ4に計上した一時費用、例えば血液・細胞テクノロジーにおける納品遅れ解消のための緊急のフレートコストや、心臓血管と血液・細胞テクノロジーにおけるコストリカ生産移管のためのコスト等がなくなることで、Q4に大幅な改善を見込んでいます。

次のスライドをお願いします。



## 地域別売上収益：米州・欧州で治療デバイスが好調、成長率では新興国が牽引

(C&V: 心臓血管、TMCS: メディカルケアソリューションズ、TBCT: 血液・細胞テクノロジー  
TIS: 血管内治療システム、ニューロ: ニューロバスキュラー)

FY23 Q2累計 地域構成比	売上収益 (億円)		FY23 Q2累計 増減率	コメント	
	Q2累計	Q2			
35%	米州	FY21 1,063 FY22 1,381 FY23 1,537	519 719 797	11% (6%)	C&Vのニューロが二桁伸長、血管が30%以上伸長して牽引
	日本	1,024 1,012 1,011	532 514 536	-0%	C&VのTIS・血管が牽引。TBCTは堅調に推移。TMCSは栄養事業の売却と、体温計の需要一巡による減収
23%	欧州	683 772 896	338 386 452	16% (6%)	C&VのTISが二桁伸長、ニューロ・血管が20%以上伸長して牽引
20%	中国	301 384 411	147 190 211	7% (8%)	TISや血液センター向けビジネスが牽引。腐敗防止キャンペーンによる症例数の減少影響は軽微。ニューロは代理店による在庫調整の影響がQ2に緩和し12月以降、TISのアクセス製品が集中購買の対象へ
9%	アジア他	374 484 585	193 251 290	21% (16%)	TBCTの血液センター向けビジネスは入札案件の前倒しによる大幅増収。C&VとTMCSも二桁成長

©TERUMO CORPORATION

8 / 11

TERUMO

地域別の売上です。主要市場の米州・欧州においてはニューロやステントグラフト等の治療デバイスが引き続き好調。また、成長率では中国やアジア等の新興国が牽引しました。

日本は、栄養事業の売却に伴う売上減少や、体温計の需要一巡といったマイナス要因が継続しているものの、薬価改定等のプラス効果により、全体で前年同期並みまで戻しています。

中国については、腐敗防止キャンペーンの影響で販促活動には大きな制限があったものの、症例数減少によるトップラインへのマイナス影響は軽微でした。また、Q1には代理店によるニューロ製品の買い控えの影響がありましたが、Q2に入って緩和し、売上は回復しています。最後に、TISのアクセス製品の集中購買ですが、9月に20省合同の入札が実施されました。この影響は下期に出てくる見通しです。

アジアの血液・細胞テクノロジーは、下期に予定されていた入札が前倒しされたことで、大幅に売上が増加しました。

次のスライドをお願いします。

## C&V : 米州・欧州が牽引し売上好調を継続。利益も計画通り進捗

(C&V: 心臓血管、TIS: 血管内治療システム、ニューロ: ニューロバスキュラー、CV: カーディオバスキュラー)

(億円)

	Q2累計			Q2			コメント	Q2累計 売上増減
売上収益	( )内は為替影響除く							
	1,943	2,354	2,657	948	1,186	1,351	TIS : 海外は二桁伸長。欧州・中国が牽引。 中国では12月以降アクセス製品が集中購買の対象へ	+186
調整後 営業利益	508	529	576	214	249	308	ニューロ : 北米・欧州が二桁伸長し、好調を継続。 中国代理店による在庫調整の影響はQ2に緩和	+34
			13% (8%)			14%	CV : 日本は装置需要が一巡するも、北米・アジア向けの 装置売上好調に推移	+40
利益率	26%	22%	22%	23%	21%	23%	血管 : 北米・欧州が牽引。新製品のハイブリッド製品売上が 好調に推移。ステントグラフトも販売拡大を継続	+43
			9% (4%)			24%	利益 : 増収と収益改善施策の効果でインフレ影響を押し返す。 販管費は、北米の治療デバイス拡販に向けた人員増強	

©TERUMO CORPORATION

9 / 11



カンパニー別に業績をご説明します。まず、心臓血管です。  
 売上は、為替を除いて+8%伸長と、事業では血管とニューロ、地域  
 では米州・欧州を中心に、グローバルで好調でした。  
 利益は、Q1はインフレや為替のストック影響を受けて減益でしたが、  
 Q2は増収に加え、価格政策の効果で大きく増益となりました。  
 下期にはコストダウン効果がさらに拡大することで、通期予想のマー  
 ジン率24%を目指していきます。  
 次のスライドをお願いします。

## TMCS： 栄養事業の売却や体温計の需要一巡が影響するも増収増益

(TMCS: メディカルケアソリューションズ)

(億円)

	Q2累計			Q2			コメント	Q2累計 売上増減	
売上収益	( )内は為替影響除く						HCS ホスピタルケア ソリューション：  LCS ライフケア ソリューション：  PS ファーマシューティカル ソリューション：	日本では栄養事業の売却に伴う売上減少を薬価改定のプラス影響と輸液セット・ポンプの好調により跳ね返す。海外はアジア・中南米が牽引し堅調  体温計の需要が一巡。日本の自己血糖測定向け製品群は競争激化により減収  納品時期の変動が影響し、日本・海外ともに減収。中長期での成長に向けた生産投資は順調に進捗	+21  -13  -6
	920	938	940	482	478	503			
調整後 営業利益	134	81	83	70	37	55	利益： 昨年度下期から悪化した国内動力費のインフレによるコスト増と一時的な製品ミックス悪化を、価格政策の効果で相殺		
利益率	FY21 15%	FY22 9%	FY23 9%	FY21 15%	FY22 8%	FY23 11%			

©TERUMO CORPORATION

10 / 11



TMCS、メディカルケアソリューションズです。  
 売上は、ライフケアソリューションにおける機器需要の一巡、  
 ファーマシューティカルソリューションにおける納品の時期ズレを、  
 ホスピタルケアソリューションの薬価改定によるプラス効果等で押し戻し、  
 為替を除くとわずかに減収となりました。  
 利益については、Q2はインフレ緩和と製品ミックス改善によりQonQで  
 改善し、上期累計でも対前年で増益となりました。  
 下期には10/1付けで実施した価格政策の見直し効果も発現するた  
 め、通期予想のマージン率10%に対して、順調な進捗と見ています。  
 次のスライドをお願いします。

## TBCT：血液センター向けビジネス好調による大幅増益

(TBCT: 血液・細胞テクノロジー)

(億円)

	Q2累計			Q2			コメント	Q2累計 売上増減
	( )内は為替影響除く							
売上収益	582	740	841	299	395	432	血液センター：アジアでは入札案件の前倒しによる売上増。中南米・欧州では全血採血関連製品の売上が好調	+88
			14% (9%)			9%	アフレスシス治療：北米を中心に細胞採取の需要が拡大。アジアでは病院向けの血液治療製品の売上が好調	+27
							細胞処理：一部事業の売却により前年比ではマイナス。細胞治療への投資拡大に伴い、細胞処理システムの売上は堅調に推移	-14
調整後 営業利益	118	91	106	58	55	48		
			17% (21%)			-13%	利益：増収による大幅増益。価格政策とコストリカへの生産移管のプラス効果も継続	
利益率	20%	12%	13%	19%	14%	11%		

©TERUMO CORPORATION

11 / 11



最後にTBCT、血液・細胞テクノロジーです。

売上収益は、昨年度から今年度のQ1まで継続していた納品遅れの解消による売上増が、今Q2にはなくなったものの、アジアにおいて、下期に予定されていた入札がQ2に前倒しされたことで、想定よりも大きな伸長率を維持しました。

利益は、Q1には在庫の期首評価替えの一時的な影響があり、大幅増益となりましたが、Q2は落ち着いています。

上期は全社として、売上・利益ともに順調に進捗させることができました。下期には、より大きな収益改善効果を刈り取ることで、通期業績予想の達成を目指します。

以上で、決算概要の説明を終わります。

## 参考資料

# 売上明細（地域別・事業別）

2023年度 上期 セグメント別売上収益

Revenue by Segment for the First Half of FY2023

(百万円) (millions of yen)

	1st Half FY2022						1st Half FY2023						構成比 % to total	
	米州 Americas	欧州 Europe	中国 China	アジア諸 国 Asia and others	海外 Others	日本 JPN	合計 計 Total	米州 Americas	欧州 Europe	中国 China	アジア諸 国 Asia and others	海外 Others		日本 JPN
心臓血管 カンパニー														
TIS	65,672	16,593	2,867	18,832	141,487	15,416	167,914	72,227	11,275	49,279	16,475	26,292	18,676	20,777
ニューロバスキュラー	14,212	6,364	3,187	8,018	32,195	2,722	34,917	16,226	18,875	11,444	28,075	4,787	-6,876	2,762
Cardiovascular	13,424	5,174	1,951	8,201	20,887	5,065	26,983	13,318	17,175	8,882	22,275	1,404	-17,476	4,492
カーディオバスキュラー	5,700	7,657	787	637	14,806	1,883	16,690	7,728	14,275	8,243	22,275	749	-6,776	3,044
Vascular Graft														
Cardiac and Vascular Company	99,299	54,884	31,698	25,496	210,487	24,917	235,406	112,835	18,776	64,945	18,276	33,439	7,766	28,480
メディカルケア ソリューションズ カンパニー														
ホスピタルケアソリューション	1,083	1,812	1,023	7,774	15,265	48,881	64,246	3,889	17,875	1,881	-8,875	948	-12,875	8,748
Hospital Care Solutions														
ライフケアソリューション	-	878	399	368	1,545	11,361	13,907	33	144,775	872	-1,475	887	20,875	1,699
Life Care Solutions														
ファーマシューティカルソリューション	1,100	8,899	204	811	6,245	10,806	16,651	721	45,875	3,889	-8,275	334	64,275	868
Pharmaceutical Solutions														
Medical Care Solutions Company	6,432	5,596	2,873	9,355	23,066	70,749	93,606	6,744	3,276	5,769	-6,876	1,499	8,876	18,424
血液・細胞 テクノロジー カンパニー														
血液センター	28,179	12,822	4,541	12,099	49,623	5,124	64,748	22,927	8,875	14,616	14,275	4,817	8,275	18,800
Blood Center Solutions														
アプレンシブ治療	8,872	8,812	723	2,712	13,819	268	14,884	8,214	14,175	3,873	17,875	881	16,275	2,889
Therapeutic Solutions														
細胞治療	4,113	256	142	264	5,069	50	5,147	2,868	-19,875	219	-8,875	81	-42,475	187
Cell Therapy Technologies														
Blood and Cell Technologies Company	22,265	16,691	5,399	14,679	69,516	5,444	73,980	34,079	3,376	19,063	14,276	5,738	19,549	21,689
その他	-	-	-	-	-	124	124	-	-	-	-	-	-	-
Others														
合計	138,896	77,181	38,371	48,419	302,880	101,238	403,316	153,699	18,376	89,389	16,376	41,889	7,766	58,454
Total														
売上比率 % to Total	24.2%	19.1%	8.5%	12.6%	74.9%	26.1%	100.0%	24.6%	28.2%	22.2%	4.1%	10.3%	1.9%	14.4%

(百万円平均換算レート)

(Average Exchange Rates)

(USD)=¥134.00  
(EUR)=¥136.70

(USD)=¥141.00  
(EUR)=¥152.43

2023年度見直し

Guidance for FY2023

	FY2023		構成比 % to total
	合計 計 Total	売上 Sales	
心臓血管カンパニー	283,300	4.8%	19.0%
メディカルケアソリューションズカンパニー	260,000	4.3%	23.4%
血液・細胞テクノロジーカンパニー	150,000	1.6%	11.6%
その他	260	-1.0%	0.0%
合計	694,000	4.7%	100.0%

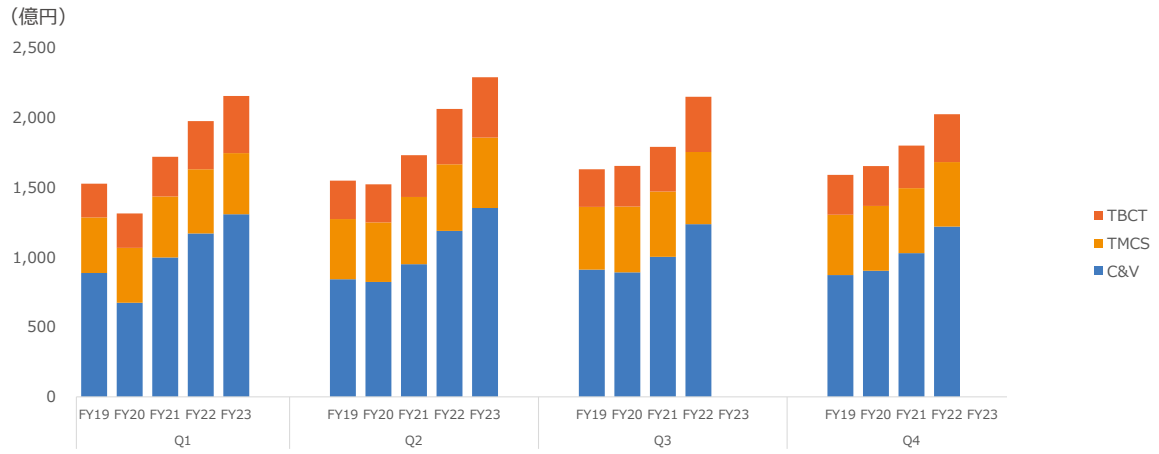
(百万円平均換算レート)

(Average Exchange Rates)

(USD)=¥132.00  
(EUR)=¥145.00

## 売上収益の四半期推移

■ FY23 Q2 : FY22 Q2との比較では+11%。FY23 Q1との比較では+6%



## 収益改善策の進捗状況

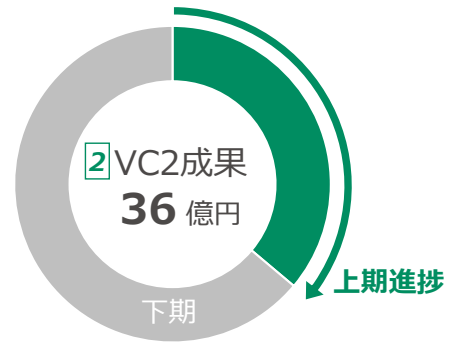


上期  
実績

薬価改定のプラス影響に加え、  
グローバルで価格政策を見直し

下期  
見通し

製品・地域を拡大して  
継続的な効果を見込む



VC2: 全社横断の原価・販管費低減プロジェクト

コストリカ移管によるコストダウン

国内工場における自動化・効率化や  
オペレーション改善による更なる成果刈り取り

©TERUMO CORPORATION

15 / 11

TERUMO



## P&L（四半期推移）

（億円）

	FY22 Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	FY23 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	
売上収益	2,060	2,147	2,022	2,153	2,286	
売上総利益	1,054 (51.1%)	1,114 (51.9%)	990 (49.0%)	1,098 (51.0%)	1,185 (51.8%)	
一般管理費	605 (29.4%)	615 (28.6%)	597 (29.5%)	651 (30.2%)	664 (29.0%)	
研究開発費	157 (7.6%)	159 (7.4%)	160 (7.9%)	154 (7.2%)	164 (7.2%)	
その他収益費用	-37	35	5	3	12	
営業利益	255 (12.4%)	375 (17.5%)	238 (11.8%)	296 (13.8%)	368 (16.1%)	
調整後営業利益	345 (16.8%)	392 (18.2%)	284 (14.1%)	345 (16.0%)	411 (18.0%)	
四半期 平均レート	USD EUR	138円 139円	142円 144円	132円 142円	137円 150円	145円 157円

## 販管費（四半期推移）

(億円)

		FY22 Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	FY23 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)
人件費		312	316	307	336	349
販促費		44	52	45	49	44
物流費		47	49	44	47	46
償却費		59	60	58	58	61
その他		142	138	143	161	164
一般管理費 (売上比率)		605 (29.4%)	615 (28.6%)	597 (29.5%)	651 (30.2%)	664 (29.0%)
研究開発費 (売上比率)		157 (7.6%)	159 (7.4%)	160 (7.9%)	154 (7.2%)	164 (7.2%)
合計 (売上比率)		761 (37.0%)	774 (36.0%)	757 (37.4%)	805 (37.4%)	828 (36.2%)
四半期 平均レート	USD	138円	142円	132円	137円	145円
	EUR	139円	144円	142円	150円	157円

## 販管費（前年同期比）

（億円）

	FY22 Q2累計	FY23 Q2累計	増減	増減率	為替除く 増減率	FY22 Q2	FY23 Q2	増減	増減率
人件費	610	685	75	12%	7%	312	349	37	12%
販促費	90	93	3	3%	-1%	44	44	-0	-0%
物流費	91	94	2	2%	-1%	47	46	-1	-0%
償却費	115	119	4	3%	0%	59	61	2	0%
その他	265	325	60	23%	18%	142	164	22	15%
一般管理費	1,171	1,315	144	12%	8%	605	664	59	10%
（売上比率）	(29.0%)	(29.6%)				(29.4%)	(29.0%)		
研究開発費	297	318	21	7%	3%	157	164	7	5%
（売上比率）	(7.4%)	(7.2%)				(7.6%)	(7.2%)		
合計	1,468	1,633	165	11%	7%	761	828	66	9%
（売上比率）	(36.4%)	(36.8%)				(37.0%)	(36.2%)		

## 調整後営業利益：調整額

(億円)

	FY22 Q2累計	FY23 Q2累計	FY22 Q2	FY23 Q2
調整後営業利益	704	756	345	411
調整① 買収無形資産の償却費	-95	-97	-49	-50
調整② 一時的な損益	-49	6	-40	8
営業利益	560	665	255	368

※ 調整項目に含まれる費用・収益の例

- 買収関連費用
- 訴訟関連損益
- 減損損失
- 事業再編費用
- 損害保険収入
- 災害による損失
- その他一時的な損益

調整②「一時的な損益」の内訳	FY22 Q2累計	FY23 Q2累計
事業再編費用	-10	-7
細胞処理事業の一部売却に関わるのれんの減損	-35	-
オリンパステルモバイオマテリアル株式売却益	-	13
その他	-4	-

## 設備投資、償却費、研究開発費

(億円)

	FY20	FY21	FY22	FY23 Q2累計	FY23予想
設備投資	772	692	758	327	800
償却費	484	532	635	335	675
買収無形償却費	146	161	188	97	175
その他の償却費	338	371	447	238	500

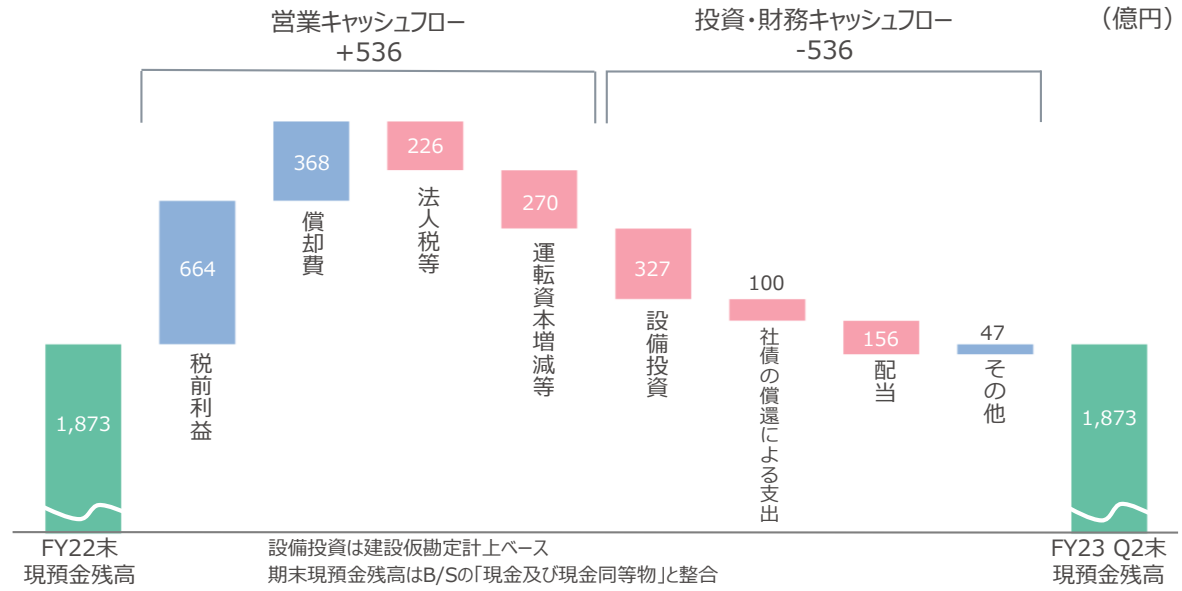
設備投資は、建設仮勘定計上ベース・リース含まず、償却費はリース償却（IFRS16）含まず

■ FY23 Q2累計（327億円）：主にTIS、ニューロバスキュラー、ファーマシューティカルソリューション、血液・細胞テクノロジーの増産設備、原料血漿採取関連、R&D投資、基幹システム（SAP）等のIT投資を継続、CDMO（開発製造受託）等生産体制強化のため甲府工場内の新棟建設に向けた投資

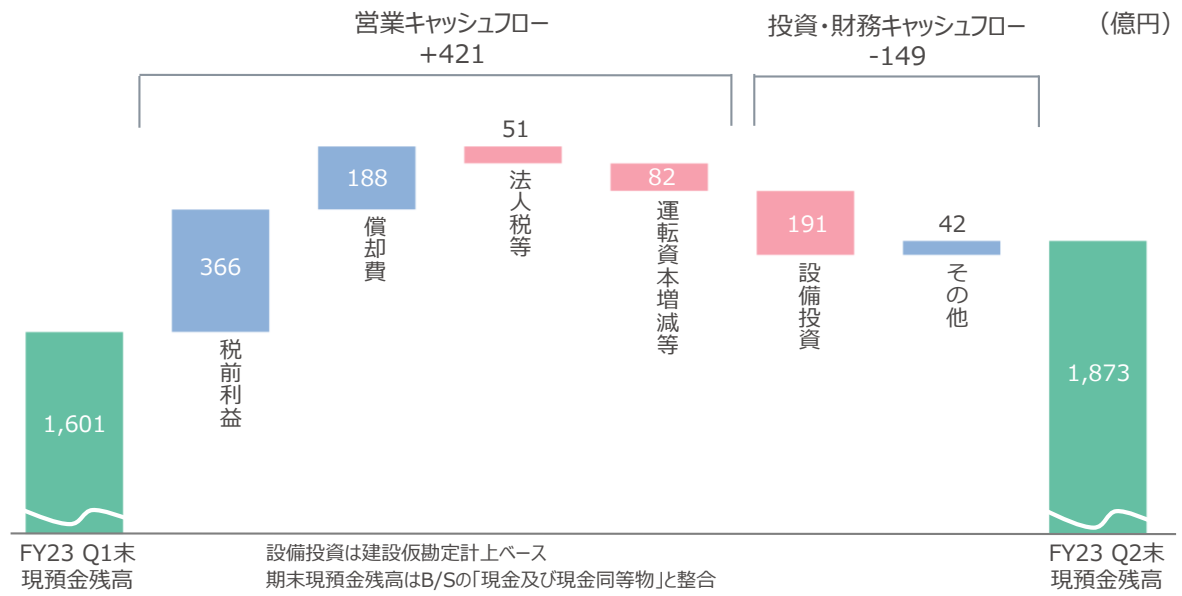
■ FY23の資本効率はROE 8.5%、ROIC 7.0%を見通す

	FY20	FY21	FY22	FY23 Q2累計	FY23予想
研究開発費	491	518	616	318	650

# キャッシュフロー（Q2累計）



# キャッシュフロー (Q2)



## FY23 Q2累計 為替影響の内訳（フロー・ストック）

### ■ 対FY22 Q2累計 為替影響 +25億円

■ フロー +40億円：米ドル高・ユーロ高によるプラス効果

レート（円）	FY22 Q2累計 期中平均	FY23 Q2累計 期中平均	差異
USD	134	141	7
EUR	139	153	15
中国元	19.9	19.7	-0.1

■ ストック -15億円：棚卸資産未実現利益消去への為替影響

・期中平均と期末日レートの差が拡大 → マイナス影響

レート（円）	FY22 3月末	FY23 9月末	差異
USD	134	150	16
EUR	146	158	12



## 為替感応度

1円の円安に対する年間影響額（フロー） （億円）

	USD	EUR	中国元
売上収益	22	11	39
調整後営業利益	0	5	23

1円の円安に対する影響額（ストック）

	USD	EUR	中国元
調整後営業利益	-2.5	-0.6	-2.0

